

# 青森県生協連「2010年度協同組合講座」開催報告

1. 日 時 2010年9月11日(土) 10:00～14:00

2. 場 所 青森県水産ビル7F大会議室

3. 出 席 78名

コープあおもり(24名)青森県民生協(5名)青森県庁消費生協(7名)八戸医療生協(6名)津軽保健生協(11名)青森保健生協(15名)十和田市職生協(1名)県生協連(4名)日生協(2名)講師(1名)森林組合連合会(2名)

4. 当日プログラム

＜司会：県生協連事務局 西田俊三＞

10:00～	開会のご挨拶 青森県生協連会長 井筒智義
10:05～	講師紹介等 市川智弘氏(日本生協連渉外広報本部)
10:15～	DVD 上映 「愛と協同」(制作：日本生協連)
10:40～	講 演:「賀川豊彦と協同組合」～協同組合の原点と今日の役割を考える～ 講 師:加山久夫氏 (賀川豊彦記念松沢資料館館長、明治学院大学名誉教授)
12:00～	昼食休憩
13:00～	分散会 * 終了後解散

・9月11日(水)、青森県水産ビル7階大会議室において県連主催の「2010年度協同組合講座(第1回)」が開催され、県内の生協、生協連から78名の役職員の参加がありました。

・井筒県連会長の開会挨拶、日本生協連渉外広報本部市川氏による加山先生のご紹介、DVD「愛と協同」の上映に続き、加山先生の講演に移りました。加山先生は、賀川豊彦の救貧活動から防貧、防貧から協同組合運動に至るまでの活動を紹介しながら、最後に「今、賀川から学ぶこと」を示されました。参加者は、現在につながる組織の設立や思想の実現に向けて歩み続けた賀川豊彦の人生を学び、彼の思想を再確認しつつ今後の生協運動に活かしていく思いを再確認しました。

・昼食を挟み、午後は、7つのグループに分かれて講演の感想や生協に対する思いを交流し、感想文提出ののち解散となりました。

・国連が定めた2012年の国際協同組合年に向けた全国実行委員会が立ちあがった。国際的な協同組合運動の課題を指摘したレイドロー報告から30年。彼が懸念した「信頼」「経営」「思想(運動)」の三つの危機は今も解決していない。賀川豊彦、レイドロー博士等の先達に学び、協同組合の真の姿と役割・重要さを広く国民に浸透させるのは私たちの課題と言えます。

■ <今、賀川から学ぶこと> \* 加山先生のテキストより\*

①「協同組合の理念(こころ)と実践(わざ)を切り離さない。」

②「賀川の総合性一人間の暮らしと社会の仕組みを全体的に考える。」  
(樹を見るだけでなく、森を見る。)

③「公益を担う国や自治体(公益経済)、私益資本主義(市場経済)、そして「第三の道」としての社会経済があり、これが将来ますます重要になる。」

④「問題は、当の協同組合のリーダー、スタッフ、組合員自身がどの程度、壮大な理念運動である協同組合について理解し、自覚的であるか、が問われる。」

「協同組合が変われば社会は変わる。そのため、変えるべきものを変え、変えてならないものを変えない勇氣、そして両者を識別する知恵が求められる。」



<参加者の感想文より…思い、記憶に残ったこと、要望等…> \* 感想文回収 47名

- ・ 協同組合の理念と実践を切り離さない事が大事であることを再確認した。
- ・ 賀川から学ぶことを、将来へ向けて今の生協にどのように活かしていくべきか等について具体的に示してほしい。
- ・ 協同組合は根本的には「運動」であり、「救貧」から「防貧」のための「運動」を前進させなければと強く思った。
- ・ 県内の各生協が交流を深め力を出し合うことが、地域の問題解決を早め、地域住民のためになる事が出来ると思う。
- ・ 生協の理念(こころ)をひとりひとりが今一度良く理解し、この経済危機の中で本当に困っている人のために自分たちが何ができるのかを本気で考えなければいけないと思った。
- ・ 理念と実践を切り離さない。基本は運動、事業は理念(相愛互助)の表現であることを忘れてはならない。
- ・ 生協運動と市民運動の提携が重要。市民全体を巻き込んだ運動こそが今の社会には必要だ。
- ・ グループ交流では、他生協のお話が参考になった。自分は何を話せばいいか冷や冷やしていたが、やってみると面白かった。
- ・ 生協の理念、生協とは何のために存在するのか、今こそ、私たちは賀川豊彦から学ぶことが大切だと思いました。
- ・ 事業と理念・運動の統一を常に振り返ることを大事にしたい。
- ・ 今日の貧困格差社会と賀川豊彦の時代が似ている。今なすべきことは「貧困」と闘うことだと思う。貧困と闘いぬく！
- ・ 生協運動の基本は運動であり、事業はその理念を実現するための手段である事。
- ・ 時代は変わっても、理念は変えないようにしたい。
- ・ 協同組合間連携を改めて強化したい。農協との協同をもっと考えるべきだ。
- ・ 何事も原点に戻って考えることが重要だ。協同組合の理念の原点をもう一度考え直す。
- ・ 「協同組合があるじゃないか」「協同組合が変われば社会は変わる」
- ・ 協同組合に関わる人は、賀川豊彦をもっともっと学習する必要がある。その考え方や行動を知ることが大切。
- ・ 平和で豊かな生活を築く、人と人とがたすけあう生協の原点を理念に持ちながら活動を続けていくことが重要だ。同じ思いを持った仲間や教育が必要だ。
- ・ 協同組合は営利を目的とする事業ではなく、本質的には愛と協同を基調とする精神運動である。「金融は社会の血管である」
- ・ 今、生協は原点を見失いつつある中で、改めて協同の大切さを学んだ。社会への働き掛けや組合員組織の大切さや理念の具体化を進めていきたい。
- ・ 第三の道の内容をもっと知りたい。
- ・ 「無縁社会」から「連帯社会」へ
- ・ 生協の置かれている情勢や経営も厳しいため、ややもすれば足元しか見えないこともあり「森」をみることをしっかり胸に刻みたい。
- ・ 子どもを動かすことで親の意識を変えていくことが有効。組合員教育が大事。